

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所

162-0805 東京都新宿区矢来町 65

電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175

発行者 総主事 司祭 相澤 牧人

「態度価値」

～イエスの復活の福音に生きる～

管区事務所総主事 司祭 ヨハネ 相澤牧人

復活日。最大の祝い日。全国の教会で主イエスのご復活を記念する礼拝をささげられたことと思います。まさに、喜びに溢れ、ハレルヤ!と賛美したことでしょう。

主イエスの復活の福音に与かる私たちは、どのように日々を生きるのか、ということをおも巡らすことも信仰の深まりに寄与することではないかと思ひます。そしてそれは、エマオ途上の物語(ルカ24:13以下)と大宣教命令(マタイ28:16以下)を合わせ考える時、一つの方向を与えてくれるのではないのでしょうか。それは、「わたし(イエス)はいつも共にいる」ということです。私たちの側からそれを言うなら、主イエスはいつも共にいてくださる、ということです。

東日本大震災の後、フランクルの本が売れ、読まれていると聞いています。アウシュビッツの収容所での体験を考察して執筆し、ベストセラー、ロングセラーとなっている「夜と霧(邦訳名)」は有名です。また、「それでも人生にイエスと言う」という本も、示唆に富んだものです。その他多くの本を執筆していますが、それらの中に、私たちが生きるこの意味、その価値とすることを説明している本を読みました。少し長いですが、引用させていただきます。

「意味とは、あらかじめ与えられたものではなくて、そのつど発見されるべきもの、状況に直面した者がみずから見出さねばならないもの。それは三つのしかたで見出されるとフランクルはいう。労働や、何かをつくり出すことにより、実現される『創造価値』。自然や芸術を觀賞する、あるいは誰かを愛することによって実現される『体験価値』。そして、それさえもあきらめなければならなくなっても実現しうる『態度価値』が、人間には残されている。仕事は、いずれできなくなるかもしれない。音楽を聴いたり本を読んだりすることも、できなくなるかもしれない。それでもなお、変えられない運命に対して、どのような態度をとるか、その事実をいかに引き受けるのかという心構えと態度によって、人はなお意味を見出すことができるのだ。」(河原理子

□会議・プログラム等予定

(3月25日以降および
前回報告以降追加分)

3月

- 26日(火) 管区共通聖職試験委員会
- 26日(火) 「いっしょに歩こう!プロジェクト」運営委員会〔仙台〕

4月

- 1日(月) 第2回世界聖公会平和協議会実行委員会
- 2日(火) 臨時総会書記局会議
- 2日(火) 年金委・年金維持資金管理委員会合同委員会
- 4日(木) 会計監査
- 6日(土) 九州教区主教就任式
- 10日(水) 59-5常議員会(9日から変更)
- 13日(土) 正義と平和・憲法プロジェクト〔中部教区センター〕
- 16日(火) ～22日(月) 第2回世界聖公会平和協議会〔沖縄〕
- 19日(金) 教礼組・組織部会
- 22日(月) 正義と平和・日韓協働プロジェクト〔沖縄〕
- 25日(木) 「いっしょに歩こう!プロジェクト」運営委員会〔仙台〕

5月

- 7日(火) 礼拝委員会
- 8日(水) ～10日(金) 人権に関する新任研修会〔東京、狭山〕
- 10日(金) 人権担当者会議
- 10日(金) ウィリアムズ主教記念基金運営委員会〔立教〕
- 11日(土) 第60(臨時)総会—沖縄教区主教選挙のため〔東京教区神田キリスト教会〕
- 11日(土) ハラスメント防止委員会
- 13日(月) 青年委員会
- 24日(金) 「いっしょに歩こう!プロジェクト」運営委員会〔仙台〕

<関係諸団体会議等>

- 4月11日(木) NCC 常議員会(日基教団)
- 26日(金) 日本キリスト教連合会総会常任委員会
- 5月16日(木) 聖公会生野センター理事會

■ 3月29日(金) は受苦日のため、管区事務所業務をお休みします。

著 フランクル『夜と霧』への旅)

復活の主イエスを知る私たちは、日常の日々の中で「態度価値」というその生き方から導き出される生の実践に向かうとき、復活を指し示し、またその福音に生きることが出来るのだろう。この様(さま)は困難なものとも言えるが、共にいてくださる(インマヌエル)、いっしょに歩んでくださる(同行二人)主イエスを知る時、勇気と力が与えられ、一步を踏み出してみようではないかとの思いに至るのではないだろうか。

エマオ途上の物語は、二人の弟子がエマオに向かう時、それがイエスだとは知らずに、語り合いながら共に旅を続ける。そして、宿での夕食のとき「イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。」(ルカ24:30~31)と記している。パンを裂かれた方がイエスだと分かったとき、姿が見えなくなったとは意味深い。まさにそれはパンの中に主イエスがおられるのだということを示しているのではないだろうか。つまり、聖餐に与かる、そこに主イエスが共にいてくださるという

ことなのだろう。

大宣教命令では、「すべての民をわたしの弟子にしなさい。父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、命じておいたことをすべて守るように教えなさい。」と語り、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」(マタイ28:19~20)と宣言されました。私たちがこれらの働きをしている時、主イエスは共にいてくださるのです。なかなか困難を伴う働きですが、共にいるとは助けてくれるということでもあるのです。支えてくれるということでもあるのです。

主イエスの復活の喜びに与かる私たち、信仰に生きる私たちは、どのような「態度」をとるか、そして、そこに「価値」を見出していくことが、私の生きざまを、その意味を、左右することになるのでしょうか。それは、「アーメン(そのとおりの)、ハレルヤ(賛美)」との信仰告白になっていくのです。



□主事会議

第59(定期)総会期第5回 3月19日(火)

1. NCC派遣委員の追加・交代追認に関して
青年委員会、女性委員会の候補者各1名が挙げられた。常議員会で承認を求める。
2. 日本盲人キリスト教伝道協議会の新総会期理事推薦に関して
同協議会より候補者1名の推薦を受けた。常議員会で承認を求める。
3. オーストラリア西部の水害に関して
2013年1月27日、オーストラリア西部で発生。2011年、2012年と3年続きで水害による大きな被害が出ている。オーストラリア聖公会の首座主教より支援アピールが出され、これに応えることとした。

日本聖公会緊急災害援助資金から50万円を送金する。

4. ソロモン諸島の地震・津波被災者支援に関して

2013年2月6日ソロモン諸島のテモツ州で発生。死者11名(内幼児2名)被災家族数は615、被災者数は2400名以上の情報を、メラネシア聖公会より得た。

日本聖公会緊急災害援助資金から30万円を送金する。

5. 2012年度管区一般会計決算案に関して一検討、承認

財政主事より2012年管区会計決算案について説明を受けて、承認した。常議員会に提案する。

次回以降：5月23日(木)、7月11日(木)

□各教区

東北

- ・ 聖職按手式 2013年4月20日(土)12時半
東北教区弘前昇天教会 執事按手：志願者
聖職候補生アタナシウス佐々木康一郎

□神学校

聖公会神学院

- ・ 2013年度入学礼拝および佐々木道人司祭校長就任式 4月9日(火)14時 聖公会神学院諸聖徒礼拝堂 入学予定者：テモテ姜炯俊(横浜・特別聴講生より正規生-2年生に編入)、ミカエル大山洋平(北関東)

ウイリアムス神学館

- ・ 入学礼拝 4月10日(水)11時 京都教区首座聖堂(聖アグネス教会) 司式：高地 敬主教 説教：吉田雅人司祭 入学予定者：中尾貢三子(京都)、遠藤洋介(神戸)

□関係諸団体

関東三教区生野委員会

- ・ 第46回日韓の歴史を学ぶ会 「在日朝鮮基督教会の女性伝道師たち～77人のバイブル・ウーマン～」 2013年4月14日(日)15時～17時 日本聖公会東京教区神田キリスト教会 会費400円(当日500円) 講師：呉寿恵氏(『在日朝鮮基督教会の女性伝道師たち～77人のバイブル・ウーマン～』(新教出版社2012年)の著者。神学博士・在日大韓基督教会教育主事・NCC教育部理事)



† 逝去者 靈魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

イサク宗像和雄(大阪教区・元伝道師)

2013年3月16日(土)逝去(82歳)

《人 事》

東京

司祭 マリア山野繁子	2013年3月31日付	定年により退職、東京諸聖徒教会牧師の任を解く。
司祭 アタナシオ佐々木庸	2013年3月31日付 2013年4月1日付	池袋聖公会牧師の任を解く。 東京諸聖徒教会牧師に任命する。 牛込聖公会聖バルナバ教会管理牧師に任命する。
司祭 パウロ中村 淳	2013年4月1日付	池袋聖公会管理牧師に任命する。
司祭 ハンナ石坂みゑこ	2013年3月31日付 2013年4月1日付	牛込聖公会聖バルナバ教会牧師の任を解く。 北海道教区に出向を命じる。
司祭 ナタナエル池 星熙	2013年3月31日付 2013年4月1日付	聖マルコ教会副牧師の任を解く。 牛込聖公会聖バルナバ教会副牧師に任命する。
司祭 アンデレ中村邦介	2013年3月31日付 2013年4月1日付	聖マルコ教会管理牧師の任を解く。 聖マルコ教会牧師に任命する。
司祭 グレース神崎和子	2013年3月31日付	渋谷聖公会聖ミカエル教会管理牧師の任を解く。
司祭 ヨナ成 成鍾	2013年3月31日付	聖公会神学院への出向を解く。

	2013年4月1日付	渋谷聖公会聖ミカエル教会管理牧師に任命する。
司祭 パウロ佐々木道人	2013年3月31日付 2013年4月1日付	神愛教会牧師の任を解く。 聖公会神学院への出向を命じる。 神愛教会管理牧師に任命する。
司祭 ビード李 民洙	2013年3月31日付 2013年4月1日付	主教座聖堂付、特別宣教事業研究担当の任を解く。 教区事務所宣教主事補を任命する(カフェエクレシア・貧困問題担当) 神愛教会に定住し、同教会管理牧師のもと同教会主日礼拝の執行を命じる。

中部

主教 ペテロ洪澤一郎	2013年3月31日付	岐阜聖パウロ教会管理牧師の任を解く。
司祭 パウロ松本正俊	2013年3月31日付 2013年4月1日付	岐阜聖パウロ教会協力牧師の任を解く。 岐阜聖パウロ教会管理牧師に任命する。
司祭 ダビデ市原信太郎	2013年4月1日付	学校法人立教学院へ3年間の出向延長を命じる。(～2016年3月31日) 岡山聖バルナバ教会主日礼拝への協力を委嘱する。
司祭 ヨシユア鈴木光信(退)	2013年4月1日付	司祭エリエゼル中尾志朗のもとで、長岡聖ルカ教会、司祭イグナシオ丁 胤植のもとで、飯山復活教会、司祭テモテ土井宏純のもとで新生礼拝堂において、原則として主日礼拝への協力を委嘱する。(任期1年)。
司祭 ダビデ相澤 晃(退)	2013年4月1日付	司祭アンブロージア後藤香織のもとで、名古屋聖ヨハネ教会、愛知聖ルカ教会、司祭マルコ箭野真理のもとで、豊田聖ペテロ聖パウロ教会において、原則として主日礼拝への協力を委嘱する。(任期1年)。

京都

<信徒奉事者認可> 2013年3月1日付
(上野聖ヨハネ教会) ルカ木村直史

神戸

司祭 マルコ平野一郎	2013年3月31日付 2013年4月1日付	浜田基督教会の任を解く。 倉敷伝道所(倉敷聖クリストファー教会)管理牧師に任命する。
	2013年4月1日付	福山諸聖徒教会管理牧師に任命する。
司祭 オーガスチン小林尚明	2013年4月1日付	浜田基督教会の管理牧師に任命する。
司祭 ダビデ林 和広	2013年3月31日付 2013年3月31日付	倉敷伝道所(倉敷聖クリストファー教会)の管理牧師の任を解く。 福山諸聖徒教会管理牧師の任を解く。

	2013年4月1日付	学校法人立教英国学院出向を命じる。 期間 2013年4月1日～2016年3月31日まで
沖縄		
主教 ガブリエル五十嵐正司	2013年3月31日付	定年により沖縄教区管理主教の任を解く。 北谷諸魂教会管理牧師の任を解く。
司祭 ダビデ上原榮正	2013年3月31日付	島袋諸聖徒教会管理牧師の任を解く。
司祭 イサク岩佐直人	2013年3月31日付	島袋諸聖徒教会副牧師の任を解く。
	2013年4月1日付	島袋諸聖徒教会牧師を命ずる。
司祭 イザヤ金 汀沫	2013年3月31日付	三原聖ペテロ聖パウロ教会勤務の任を解く。
	2013年4月1日付	管理牧師司祭ダビデ上原榮正のもと名護聖ヨハネ教会副牧師を命ずる。
司祭 ヨハネ棚原恵正	2013年4月1日付	管理牧師司祭ペテロ高良孝太郎のもと屋我地聖ルカ教会嘱託司祭として勤務することを委嘱する(任期1年)。
司祭 ミカエル津留孝夫	2013年4月1日付	管理牧師ペテロ高良孝太郎のもと愛楽園祈りの家教会嘱託司祭として勤務することを委嘱する(任期1年)。
司祭 マッテヤ高良孝誠	2013年4月1日付	管理牧師司祭ペテロ高良孝太郎のもと月の第1主日を愛楽園祈りの家教会嘱託司祭として勤務することを委嘱する(任期1年)。
管区		
日本聖公会大阪教区主教		
主教 サムエル大西 修	2013年4月1日付	日本聖公会法規第10条第1項により、救主降生2013年4月1日より沖縄教区管理主教に委嘱する。

「第2回世界聖公会平和協議会 in Okinawa」 の開催を前に

世界聖公会平和協議会
実行委員会
委員 司祭 野村 潔

今年2013年4月16日(火)～22日(月)の日程で、「東アジアの平和と和解に向けて」という主題のもと「第2回世界聖公会平和協議会 in Okinawa」が開催されます。「世界」を称するには、多少、おこがましいとは感じつつも、韓国、アメリカ、イギリス、カナダ、香港、中国、フィ

リピン、ミャンマー、オーストラリア、日本など約10カ国から約80名の人々が沖縄に集まり、東アジアにおける平和への取組みについて、話し合う予定になっています。基調講演は、ジェファーツ・ショーリ米国聖公会総裁主教が予定されており、「沖縄における米軍基地の課題と聖公会

の役割(仮題)」という興味深いテーマで話されることになっています。

そもそもどうして、このような協議会が開催されることになったのか、その経緯を簡単にご紹介いたします。

2005年に開かれた全聖公会中央協議会(ACC-13)にて、「東北アジアに影響力を持つ国々の聖公会の教会の指導者が、南北朝鮮を訪問することを考慮して、彼らができるいかなる方法においても両国の再統一のために貢献すること」という決議(49)がなされました。この決議に基づき、2007

年11月14日～21日、ソウル近郊のパジュ市にて、大韓聖公会が中心となり「世界聖公会平和大会、2007ソウル」が開催されました。各国参加者は北朝鮮を訪問し、水害の被災者への人道支援を行うとともに、朝鮮半島の再統一と東北アジアの平和について多角的な協議を行い、「世界聖公会平和大会(TOPIK)宣言文」(日本聖公会第57定期総会決議録P300～304参照)を採択しました。日本聖公会第57(定期)総会では、この宣言文に賛同し、今後も大韓聖公会をはじめ各国聖公会と協働して朝鮮半島の平和統一及び東北

アジアの和解と平和のため取り組むことを決議しました。

この決議を受けて、日本聖公会第58(定期)総会では、第2回世界聖公会平和協議会を沖縄にて開催することを決議し、実行委員会を設置し、準備を行ってまいりました。

沖縄は、アジアにおける米軍の軍事戦略上の重要拠点であり、東北アジアの平和と南北朝鮮の再統一の鍵を握る場所と言われます。沖縄は第2次世界大戦の末期、住民を巻き込んだ激しい地上戦を経験しました。戦後も長年にわた

「第2回世界聖公会平和協議会」プログラム

2013年4月16日(火)～22日(月)

※当日までに変更の可能性があります。

<p>16(火)</p> <p>14:00 受付(ホテル)</p> <p>15:30 バスで三原聖ペテロ聖パウロ教会へ移動</p> <p>16:00 開会礼拝 司式:武藤謙一主教 説教:植松誠首座主教</p> <p>17:00 オリエンテーション</p> <p>18:00 夕食</p> <p>19:00 主題講演 ジェファーツ・ショーリ主教 (アメリカ聖公会総裁主教)</p> <p>21:00 バスでホテルへ移動</p>	<p>19(金)</p> <p>朝食</p> <p>9:00 「発題」(ているるホール) ①韓半島分断状況(TOPIK)</p> <p>10:00 柳時京司祭</p> <p>10:30 ②沖縄米軍基地、平和憲法9条 ダグラス・ラムिसさん</p> <p>12:00 昼食</p> <p>14:00 グループ討議Ⅱ(ているる会議室) 特別講演を受けて</p> <p>17:00 ブレイク</p> <p>17:30 夕食(ホテル)</p> <p>19:00 各国報告(5/12カ国)(ているるホール) フィリピン、ミャンマー、マカオ、台湾、香港 中国、ニュージーランド、オーストラリア、 イギリス、アイルランド、アメリカ、カナダ</p>
<p>17(水)</p> <p>朝食</p> <p>8:30 フィールドトリップ 「戦跡・沖縄戦の追体験」</p> <p>12:00 昼食 フィールドトリップ 「基地巡り」</p> <p>17:00 三原聖ペテロ聖パウロ教会到着</p> <p>18:00 レセプション/夕食 挨拶:キム・グンサン主教 (大韓聖公会首座主教) 協議会会長:大畑喜道主教 (東京教区主教)</p> <p>21:00 バスでホテルへ移動</p>	<p>20(土)</p> <p>朝食</p> <p>9:00 各国報告(7/12カ国)(ているるホール)</p> <p>12:00 昼食</p> <p>14:00 グループ討議Ⅲ(ているる会議室) 提言に向けて まとめ</p> <p>17:00 フリータイム / 夕食 (ステートメントコミッティー)</p>
<p>18(木)</p> <p>朝食</p> <p>9:00 1フィートフィルム(ているるホール)</p> <p>10:30 グループ討議Ⅰ(ているる会議室) フィールドトリップ/主題講演を受けて</p> <p>12:30 昼食</p> <p>14:00 特別講演:原発と軍事化(ているるホール) 内藤新吾牧師(福音ルーテル教会)</p> <p>16:00 ブレイク</p> <p>17:30 夕食(ホテル)</p> <p>18:30 特別講演:原発と沖縄(ているるホール)</p> <p>21:00 谷昌二主教(元沖縄教区主教)</p>	<p>21(日)</p> <p>朝食</p> <p>10:30 主日礼拝(沖縄教区各教会へ)</p> <p>12:00 昼食 / フリータイム (ステートメントコミッティー)</p> <p>18:00 バスで沖縄教区センターへ移動</p> <p>19:00 「フォーラム」声明/宣言</p> <p>19:30 フェアウェルパーティー(エイサー等)</p> <p>21:00 バスでホテルへ移動</p>
	<p>22(月)</p> <p>朝食</p> <p>8:30 閉会礼拝(聖餐式)(ホテル) 司式:洪澤一郎主教 説教:キム・グンサン主教</p> <p>10:00 解散</p>

り米軍基地による様々な被害と、新たな基地建設をめぐる課題に直面しています。実行委員会では、このような沖縄の歴史と現状に学び、また韓国をはじめ参加する各国が直面している課題を分かちあいつつ、聖公会共同体として平和と和解の実現について議論を深め、発展させたいと願っています。

また、今回は、東日本大震災によって引き起こされた原発事故による放射能被害についても課題として取り上げ、殊に原子力をめぐる問題についても協議したいと考えております。特別講演の講師として福音ルーテル教会の内藤新吾牧師と、前沖縄教区主教の谷昌二主教をお招きすることにしました。内藤先生は、「原子力と軍事化」をテーマに日本の原子力政策がいかに核開発と密接につながっているかというお話をしてくださいませ。また谷主教は「沖縄の基地建設と原発建設に共通する課題」をテーマに、基地も原発も中央から遠く、経済的な弱さを抱えている地域に押しつけられているという構造的な問題

を語ってくださいます。

元々の計画では、2011年の秋に開催する予定でしたが、東日本大震災が起これ、延期をせざるを得なくなりました。一方、その間、中国、韓国など日本の周辺諸国との間では領土問題も生じ、東アジアの平和構築の取組において、様々な困難が予想される事態になりました。しかしながら、私たちは二度と戦争の悲惨さと愚かさを繰り返してはならないという願いを各国参加者と共有し、お互いに平和な世界を築いていくために心を開いて話し合い、互いの信頼と友好を深めて行く機会にしたいと願っています。

開催期間中の4月21日は主日です。この日、参加者は分散し、沖縄教区の各教会の礼拝に出席し、共に平和のために祈ることになっています。どうぞ、4月21日の主日には、日本中の教会にて、「第2回世界聖公会平和協議会 in Okinawa」を覚えて、また東アジアの平和と和解のため、そして世界の平和のため、ご一緒にお祈りくださいませようお願いいたします。

■第2回 U26集会報告

「わたしたちの心は燃えていたではないか」

U26チャプレン 司祭 ステパノ 越山哲也

2013年2月15日(金)～17日(日)の日程で、東京の国立オリンピック記念青少年総合センターを会場に「第2回 U26集会」が行われました。私は土曜日の夕方までの参加でしたが、集会の主題聖句の通り、参加者の熱い思いが伝わってくる時でした。U26は発足当時から青年の主体的自主的な活動を掲げており、今回の集会も運営委員会を中心として、一生懸命準備をされていました。

彼らと話をしていると、こちらも負けていられない気持ちになります。それだけのパワーがU

26にはあります。まだまだ荒削りな点多々ありますが、それを補うやる気と前に進もうとする思いを私は受け止めていきたいと思っています。今年の集会を開催するまでの道のりも決して順風満帆ではありませんでした。悩み、葛藤などの苦しみを経て、主題聖句を大事にしながら、U26の発足当時のあの「燃える思い」を忘れないで彼らは歩み続けてきたと思います。

発足当時から関わっている青年、今回が初めての参加の青年も皆共通していることは、同年代の仲間と出会いたい、そしてこの出会いを

絆としていきたいということだと思います。これが、教会の成長、そして個人の信仰を成長させていく源としてあるのではないのでしょうか。実際に、これまで教会から疎遠になっていた青年がU26の活動や仲間と出会って教会との関わり方に変化があったという参加者の嬉しい感想も聞くことが出来ました。

前に進もうとする思いは、プログラムの中にも反映されていました。それは「アクションプラン」について考える時間でした。U26は、それぞれの教会、教区も大切に、更に教区を超えて全国の青年と共に活動することを目的にしています。そこで、2つの教区ごとグループを4つ作り、1年以内に実現可能なアクションプランを作成しました。少し紹介します。東京教区と京都教区は、お互いの教区で毎年行われている夏のキャンプを通して、新たに青年の交流を生むことを願いながら活動をするそうです。北海道教区と沖縄教区は、北海道で神様からいただいた大自然を感じながら共に祈りを捧げるプログラムを企画しました。来年の2月開催の予定です。

東北教区と神戸教区は、神戸教区の中高生大会へ東北の青年を招待、冬は東北で雪下ろし交流会などのアイデアが出ました。どちらも大きな震災を経験した教区同士、支え合おうという話でもでした。これらのアクションプランは、青年のみのアイデアで計画されました。実行するには、それぞれの教区の青年だけではなく、信徒、聖職者、地域のたくさんの方々のご協力が不可欠だと感じています。今回計画されたプランが、神様に導かれ、用いられ、豊かな交わりのときになりますように、どうぞ応援とお祈りをよろしく願います。

次に「バイブルシェアリング」についてご報告いたします。プログラムの中で聖書のみ言葉を味わい、考える時間がきちんと設けられていたことは大変嬉しく思いました。

取り上げた箇所は大斎節第1主日の福音書(ルカによる福音書4:1~13)でした。主イエスが悪魔から荒れ野で誘惑を受ける場面です。この箇所についてグループに分かれて自由に分

かち合いを行いました。事前の聖書レクチャーは行なわずに、質問があれば応えることにしたのですが、各グループから次々に質問が出されてどのグループも真剣に取り組んでいました。この聖書の分かち合いの結果をまとめて翌日のみ言葉の礼拝の中で、各グループごとに奨励をしました。このようなスタイルの聖書の分かち合いも参加者にとってとても新鮮だったのではないのでしょうか。

全国規模のプログラムを計画、準備、実行することは大変なことです。今回の集会も陰ひなたとなり支えてくださった方々がいることを彼らも覚えていました。U26の活動を支えてくださっている各教区の諸教会の皆様、青年委員会や各教区の青年担当者の皆様方に心より感謝申し上げます。どうぞ、今後ともU26のためにお祈りとご支援をよろしく願います。彼らの「燃える心」を主が豊かにくださり、祝福をお与えくださいますように。

■若者の声

第2回U26全国集会を終えて

東京教区 聖アンデレ教会
カタリナ鈴木みのり

今回の集会は、改めて自分と教会との繋がり、教区との繋がり、そして他教区との繋がりを考えさせられるものとなりました。

初日はグループに分かれて「自分と教会」というテーマで分かち合いを行いました。各グループ様々な意見が上がっていましたが、中でもなぜ自分は教会に通っているのか、教会の魅力とは何か、どんな教会だったら今は教会に来ていない人が行きたくなるかについての議論が白熱していました。グループごとに考えをまとめた発表の時間には、教会の好きなところを挙げていたり、教会に通うようになったきっかけを発表したり、これからの教会活動、青年活動でどのよ

うなことをしたいか発表していたりと、青年の教会への思いが伝わってきて、とても有意義な時間でした。

特に印象的だった意見は、若者の教会に行く理由です。圧倒的に多かったのは「子供のころから毎週通うのが習慣だから」という意見です。しかし中には「礼拝で神様にお祈りを捧げることが大切なことだから」「司祭さまのお説教をききたいから」という意見もありました。これは教会に行く理由としてとてもポピュラーなものに感じるかもしれません。しかし幼児洗礼を受けて小さなころから両親と一緒に礼拝に出ていた青年にとっては、明確な目的があって自ら教会に足を運んだ同世代の仲間からの意見はとても新鮮だったのではないのでしょうか。また、毎週欠かさず教会に通っている青年は、礼拝での当番があるので行かないと大変なことになるから絶対に毎週行く、と言っていました。これをきいて、あなるほど、と思いました。

アコライト・サーバーから始まり昼食係や教会委員バザー委員など、皆さんの教会の当番は普段どうやって決めているのでしょうか。選挙で決めるものや、有志の方が集まって行うものなどいろいろな当番の決め方があると思います。もし在籍はしているのになかなか教会に顔を出さない若者がいたら、今までいつものメンバーでやっていた教会のたくさんの役割・お仕事の一部をその若者をお願いしてみるのはいかがでしょうか。教会のお母さんたちと一緒にお昼ご飯を作ったり、バザーの準備のお手伝いをしたり、今までしてこなかった交わりが増え若者と上の世代の方達との繋がりがより深くなったら、どちらの世代の方も教会にくる喜びが大きくなることでしょう。そして、若者が今よりも気軽に教会に足を運べるようになったら素敵だと思います。

二日目にはアクションプランの作成とバイブルシェアリングを行いました。

アクションプラン作成の時間には、まずひとりひとりが「We(I) must/can/want/do」の四つのテーマをもとに教会というコミュニティの中で自分自身がすべきこと、できること、したいこと、

していることを考えました。そして、それをヒントにして他教区同士が協力して行う青年活動の計画を立てました。

そこで出た案は、神戸教区の青年が東北教区の教会に出向き東北の青年と一緒に雪かきボランティアをすること、京都教区と東京教区の青年が教区の中高生キャンプの情報を共有しあい、お互いのキャンプを手伝いに行くこと、沖縄教区の青年が北海道教区の青年と交流し、豊かな自然の中で礼拝を行うことを目的に北海道に行くこと、東京教区と横浜教区の青年が合同で活動報告会をすることの四つです。



そして、今回出たこの計画を今年一年の間に実行し来年度のU26全国集会で報告しあうことを目標にしました。こうすることにより全国の青年たちがお互いの横のつながりを意識し、より積極的に教会活動を行えるようになるのではないかと考えたからです。そして、教区を超えて青年活動を行うことで青年が少ない、またはほとんどいない教区・教会の青年にも活動の場を持ってもらえるようになります。また青年が考えた硬すぎない教会活動は、教会活動に積極的でない若者も参加しやすいものになったと思います。あくまでも青年たちで考えた計画なので、すべての計画を実行することはできないかもしれませんが。そして、実行するには今回集会に参加した青年だけではなく全国のU26世代の皆様、そして各教区の全信徒の皆様への応援が必要だと考えています。今回掲げた計画を実行した際には何らかの形で皆様にもご報告しますので、ぜひ楽しみに待っていてください。

二日目の後半に行ったバイブルシェアリングでは、「ルカによる福音書4章1節から13節」を

用いて行いました。これは、今回の集会の主日聖書です。40日間悪魔の試みにあわれたイエス様が悪魔の更なる誘惑に打ち勝ったことが記されたこの箇所を使い、少人数のグループに分かれて分かち合いを行いました。正解をもとめること以上に、自分がこの箇所を読んで何を感じたかを分かち合っていたグループが多かったように思います。本来、悪魔とは実体のあるものとして解釈していますが、悪魔とは、もしかしたらイエス様の中にあつた弱さそのものなのではないかという意見や、最期のときが来るまで悪魔との戦いは続くのだと思う、という意見がでていて、各グループが自由にイエス様と悪魔について深く分かち合っていると感じました。そして、各グループ自分たちの思いを一つにまとめ、最終日の朝に行った御言葉の礼拝で奨励として全員で分かち合いました。

U26全国集会を行ったことで、聖公会の若者が集まり思いを分かち合うこと、そしてひとりひとりの繋がりを深めることの素晴らしさを改めて感じることが出来ました。この繋がりが今回参加した青年だけに留まらず、より多くの聖公会の青年、そして世代を超えた全ての信徒の方々に広がっていくことを願います。



東日本大震災支援

「いっしょに歩こう!プロジェクト」 仙台オフィスから ⑩

— 人と人の繋がりを大切にする支援を —
外国人被災者担当
岩本 翔太

「翔太、次はいつ来るの?」何気ないこの一言を子どもの口から初めて聞いた時、嬉しさと同時にこれからこの子どもとずっと関わっていかなければならないと心から思いました。

私は「いっしょに歩こう!プロジェクト」にて外国人被災者支援の「個別支援」に深く関わらせていただいております。ここでいう外国人とは、仲介業者を通して日本人男性と結婚したり、エンターテイナーとして来日して日本人男性と出会い、結婚した女性がほとんどです。

震災から半年が経過した2011年の秋に、当プロジェクトへ困っている外国人の家庭が数件あるとの情報が寄せられ、会いに行きました。し

かし、初めて彼女らに会った時は困っていることはあるかと尋ねても「特にない」の一点張りでした。そこには“外国人だから”という遠慮が見えたような気がします。しかし、毎週通ううちに自宅に上げてもらえるようになり、込み入ったお話を聞くようになりました。この頃から悩みや要望も同時に聞く事ができるようになったと思います。

最初の支援は冬に入る前だったので緊急支援としてストーブや毛布などの暖房器具や冬服などの物的支援をしました。そこでもみなさんは「うちは最後でいいから」と言っていたのが印象的でした。物資を持って行くなかでも、悩みや要望を聞く機会が多くなりました。ここで多く出されたのは「市役所から来たプリントや子どもたちが学校からもらってくるプリントが読めない」「子どもに勉強を教える事ができない」という生活の支援の要望でした。

彼女らの旦那さんは日本人です。震災前は旦那さんが対処をしていましたが、震災の影響で仕事を失い、家族を残し単身赴任をしている人も大勢います。また、転校せざるを得なかった子

どもやその保護者は、学校とのやり取りを一から始めなければなりません。

わたしたちがこのような状況のなかでどのような役割を担えるかと考えた結果、個別支援という細かい、人と人との繋がりを大切にする支援でした。子どもの学習支援や、行政から来る配布物にふりがなをふったり、易しい日本語で説明したり、時には市役所や職業安定所、病院などにも同行します。また何度も通ううちに、お母さんが外国人だからというたくさんの悩みを、子ども自身から聞くようになりました。これらの悩みについてひとつひとつ丁寧に、いっしょに解決するようわたしたちも努力しています。

外国人支援を通して様々な国の方と関わらせていただきましたが、みなさんの悩みのほとんどは日本で暮らすことの難しさです。しかし、彼女たちは自身の将来はもちろん、子どもたちの将来についての希望も持っています。また、この問題は被災地に限らず潜在的に存在しており、震災をきっかけに顕在化した問題です。

支援の形や方法はこれから様々に変化していきますが、今まで出会った人たちとこれからもずっといっしょに歩いていこうと思います。どうか被災地にいる外国人を覚え、お祈りいただけたらと思います。

第27回人権啓発集会フィールドワーク

「新宮地区訪問と大逆事件を学ぶ」に参加して

管区人権担当

東京聖十字教会 打田茉莉

第27回人権啓発集会が和歌山県水平社創立90周年を記念する和歌山県白浜および田辺に於いて1月31日から全体集会が開催され、全国から部落解放運動関連諸団体、企業、行政、宗教関係者等が集まった。2月1日に分科会が行われた。「新宮地区」フィールドワーク参加者は、全体会終了直後バスで、100年前の南方熊楠の警告が現実となり、昨年9月の台風で26人の死者が出たという那智山麓のまだ修理中の道路を抜け、熊野川と太平洋の合流点新宮市に移動した。

翌朝8時出発で、「中上健次没後20年—佐藤春夫から中上健次へ」展開催中の佐藤春夫記念館、速玉大社、大石誠之介生誕跡地、河原周辺を経て南谷墓地へ行き、中上健次、高木顕明(浄土真宗大谷派浄泉寺僧侶)、大石誠之助(クリスチャン医師)、峰尾節堂(臨濟宗妙心寺派僧侶)らの墓を廻った。ここは市の共同墓地で故人の宗教を問わず混在している。2001年

9月21日「大逆事件の熊野の犠牲者たちの名誉を回復し、顕彰することを宣言する」と市議会が決議した「志を継ぐ」碑は、現在、春日の小公園にあるが、6名の犠牲者について「太平洋戦争後、この事件は自由思想弾圧のための国家的陰謀である真相が判明し、かれらはその犠牲者であった。……熊野独特の進取の精神や反骨の気風のなかで、平和・博愛・自由・人権の問題においては、むしろ時代の先覚者であった。……」と刻まれている。

峰尾節堂記念館で「大逆事件」関連パネルを見て、春日隣保館で昼食。ここで、新宮市の部落解放運動について説明を受けた後、中上健次が「路地」と呼んだ地区を訪れたが、今は公営住宅が建ち並び、路地の面影はない。大石誠之助は貧しい人々を無料診療し、高木顕明は寺子屋を開いていたという。高知県中村の幸徳秋水は、船で新宮に来、彼らと交流があったという。当時の新宮は東京へ材木を運搬する船が多く

出入りする港町だった。

夏樹静子は「裁判百年史ものがたり」(2010年、文藝春秋発行)の中の特別対談で、第16代最高裁判所長吉島田仁郎に「大逆事件は、当時の刑事裁判制度が抱えていた問題点がすべて出ています。捜査における拷問などの人権侵害、予審による職権的、糾問的な手続、広範囲にわたる裁判の非公開、計画・謀議をも処罰対象にする刑法のあり方など、制度的な問題が

全てあらわれている。こういう裁判があったことを、忘れてはいけないし、いつでも反省材料にしておくてはいけません。」と言わせている。

幸徳らの判決から50年後の再審請求は、1965年12月10日、棄却され、請求人らの特別抗告も1967年7月最高裁大法廷で棄却されているが、100年過ぎた今、立命館大学で供述記録の分析研究が進んでいるという。

世界への窓

女性に対する暴力撲滅

第57回「国連女性の地位向上の会議」(UNCSW)と同時に開催の聖公会女性会議の様子を紹介します。

UNCSWは女性の平等と女性の権利の確立を目的に1964年に設立された国連の組織です。

UNCSWは3月1日から15日まで国連本部にて開催されました。主なテーマは暴力を撲滅することにより女性平等の達成を目指すというものです。聖公会女性会議のキーノートスピーカーであるバングラデッシュ大使チャドハリ氏は開発途上国に焦点を当て、殊に女性と子供のために正義と平和を達成することを自分のキャリアーとして取り組んでいることで有名な方です。出席の各国の代表は、国別ではオーストラリア、ブラジル、ブルンディ、カナダ、日本、米国、韓国、ニュージーランド、ナイジェリア、ペルー、スリランカ、南スーダン、英国、

スコットランド、ジンバブエ等で、あらゆる形の女性・子供に対する暴力(人身売買等を含む)の予防と撲滅に関することや、各々の国で自分達が実際どのように行動するかが議論されました。又、この課題に対して教会が大きな貢献が出来ることを全員で共有しました。この会議では、日本聖公会を代表して参加した東京教区・笹森田鶴司祭が、東日本大震災について報告し、参加者全員で祈ったことが写真と共に掲載されています(ACNS 3月8日号。www.anglicancommunion.org/acns/news.cfm/2013/3/8/ACNS5340)。会議の詳細は参加者から「管区事務所だより」に報告されると思います。 ※参考記事 ACNS 2月21日号; Women's Equality, Church Times 3月1日号; Church joins in as UN bids to end violence against women. ACNS 3月8日号; Remember the survivors. (東日本大震災関連)

(記・渉外主事 八幡眞也)

日本聖公会管区事務所ホームページ <http://www.nskk.org/province/> ☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメールでお寄せください。
comm-sec.po@nskk.org 広報主事(鈴木)宛て

 **いっしょに歩こう!**
プロジェクト
日本聖公会東日本大震災被災者支援

ホームページ <http://nskk.org/walk/>